

October 26, 2020

【前日の為替概況】ユーロドル、反発 独・ユーロ圏製造業 PMI が予想を上回る

23日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは反発。終値は1.1860ドルと前営業日NY終値(1.1818ドル)と比べて0.0042ドル程度のユーロ高水準だった。欧州時間に発表された10月の独・ユーロ圏製造業購買担当者景気指数(PMI)速報値が予想を上回ったことを受けて全般ユーロ買いが強まった。高く始まったダウ平均が一時210ドル超下落するとリスク・オフのドル買いが入り1.1825ドル付近まで下押しする場面もあったが、下値は堅かった。引けかけては再びユーロ買いが優勢となり、5時過ぎに一時1.1865ドルと日通し高値を更新した。

なお、イタリアやフランスでは日別の新型コロナウイルス感染者が過去最多を更新したものの、相場への影響は限られた。米食品医薬品局(FDA)が前日に新型コロナ治療薬として、バイオ製薬のギリアド・サイエンシズの「レムデシビル」を承認したことで、市場ではワクチン開発の進展期待が高まっている。「米日用品・医療大手のジョンソン・エンド・ジョンソン(J&J)は新型コロナワクチンの臨床試験(治験)を近く再開する」との報道も伝わった。

ドル円は反落。終値は104.71円と前営業日NY終値(104.86円)と比べて15銭程度のドル安水準だった。ポンドドルの下落や米国株相場の失速でドル買い戻しが進み、一時104.88円付近まで持ち直す場面もあったが、アジア時間に付けた日通し高値104.94円を上抜けることは出来なかった。この水準はトランプ米大統領の新型コロナウイルス感染が判明して付けた2日の安値であり、重要な戻りの目途として意識される。米長期金利の低下なども相場の重し。

ユーロ円は3営業日ぶりに反発。終値は124.19円と前営業日NY終値(123.94円)と比べて25銭程度のユーロ高水準。独やユーロ圏の製造業PMIが良好な内容となったことで円売り・ユーロ買いが優勢となり、一時124.23円と日通し高値を付けた。

ポンドは頭が重かった。英国と欧州連合(EU)の将来関係を巡る交渉が最終盤に入中、「フランスは英海域の漁業権について譲歩する意向を示している」との報道が伝わるとポンド買いが先行したものの、その後は一転下落した。市場では「25日まで行われる英EU交渉を見極める必要がある」との指摘があった。ポンドドルは一時1.3019ドル、ポンド円は136.37円、ユーロポンドは0.9107ポンドまでポンド安に振れた。

【本日の東京為替見通し】ドル円は動きにくい、米選挙は事前投票拡大

本日のドル円も先週同様に方向感のない動きとなるか。ここ最近、本邦勢を除いてはドル円に対する興味が極端に薄い。株式市場が上昇しリスクオンになった場合も、リスクオンのドル売りや円売りが重なることもあり、どちらも手を出しにくい状況だ。主な市場参加者も本邦勢が中心となり、上昇時は売り遅れの売りが入り、下落時は手堅く輸入勢などが買いを入れている。また、ボラタリティの低さから104円台、105円台はオプションが設定されていることもあり、より値動きを狭めている。この流れは当面続きそうなので、今週もドル円は他通貨と比較すると蚊帳の外の状況は変わらないだろう。

先週末に行われた米大統領候補による討論会もサプライズはなく、カウントダウンが始まった選挙だが波乱を期待するのは現時点では難しいか。特に週末の時点ですでに45州と首都ワシントンで5800万人が事前に投票を済ませていることも、バイデン氏が2016年のように予想を翻して敗北する可能性が低い要因となっている。よって、市場はトランプ後の金融市場(バイデン氏勝利・上院過半数も民主党獲得)を徐々に織り込み始めている。ただし、追い込まれれば追い込まれるほどトランプ米大統領は何をしでかすか分からないことで、引き続き米大統領の行動や言動には要警戒となりそうだ。特に対中圧力を強める可能性もあり、両大国の動向はより一層注目が集まる。

ウイルス感染第2波については、ここ最近市場の反応は鈍いが、欧州では様々な規制強化に動いている。また、米国もこれまでの感染者数の記録を更新しているだけでなく、ペンス米副大統領の側近5人に陽性が確認された。ただし、残り大統領選まで僅かなこともあり、副大統領は自己隔離を行わないで今後も遊説予定となっている。

ドル円以外の通貨では、本日も欧州通貨は神経質な値動きを繰り返すそう。英・欧州連合(EU)間の交渉は様々なニュース、発言、噂が流れているが、合意か決裂か結果が出るまでは引き続き上下を繰り返すそう。なお、週末には「サンデー・テレグラフ」紙は両者での意見相違はかなりあるが、バルニエ英

EU 離脱・欧州委員会首席交渉官が当初は 25 日に帰国予定だったが、交渉のため 28 日まで英国に留まると報じている。「サンデー・オブサーバー」紙もジョンソン英首相は米大統領選が終了するまでは、合意なき離脱には踏み込まないとも報じている。

新興国通貨では先週最安値を更新したトルコリラの値動きにも要警戒となる。トルコと仏の関係悪化がリラへ、どの程度影響を与えるか注目される。

本日の経済指標では 10 月独 Ifo 企業景況感指数が注目される。他の経済指標は米国からも為替相場を動意づけるような指標の発表がないことで、本日は Ifo の結果を注視したい。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◇ 9 月企業向けサービス価格指数（予想：前年比 1.0%）
- 14:00 ◇ 8 月景気動向指数改定値

<海外>

- 18:00 ◎ 10 月独 Ifo 企業景況感指数（予想：93.0）
- 19:00 ◎ デコス・スペイン中銀総裁、講演
- 23:00 ☆ 9 月米新築住宅販売件数（予想：前月比 1.3%/102.5 万件）
- 香港（重陽節の翌日）、ニュージーランド（労働者の日）、休場
- 欧州は 25 日から冬時間に移行済み

27 日

<海外>

- 06:45 ◎ 9 月ニュージーランド（NZ）貿易収支

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

23日 07:27 メドウズ米大統領首席補佐官

「新型コロナ対策協議が新たな段階に、1.9兆ドル規模で調整中」
「トランプ大統領、世帯への直接給付など対策拡充の意向」

23日 10:23 トランプ米大統領

「新型コロナに感染し多くのことを学んだ」
「コロナの米上陸は自分のせいではない、中国の責任」
「学校と国の活動再開が必要」
「オバマケアを終わらせ、より良い医療保険を考える」
「バイデン氏が大統領になれば景気後退」

23日 10:29 バイデン米民主党大統領候補

「安全に活動を再開することが重要であり、そのためには財源が必要」
「ヘルスケアは権利、民間の保険を選べないわけではない」
「バイデンケアはより安い保険となり、薬価も低下する」
「2035年までにはカーボンニュートラルを目指す」
「ウォール街 気候変動計画で1800万人の雇用」
「石油産業からの移行をはかる 連邦助成金も減らす」
「パリ協定へ復帰」

23日 11:51 習・中国国家主席

「国防・軍の近代化を加速する必要」
「一国主義・独占主義・いじめに効果なく、行き詰まる」
「どのような人や勢力にも中国の領土を分断させない」

23日 12:54 中国国家外為管理局報道官

「中国人民元は、妥当にバランスの取れた水準付近で推移する」
「人民元は予想よりも安定的に推移し、比較的高い柔軟性を維持している」
「国境をまたぐ資本フローの監視を強化する」

23日 13:54 トラス英国国際貿易相

「署名したばかりの英日貿易協定は両国の経済関係を新たなレベルに引き上げるだろう」
「我々はカナダスタイルの取引を望んでおり、それは合理的だと思う」
「ブレグジットの合意は可能」
「欧州連合(EU)と本当に進展があった」
「もしEUとブレグジットで合意が出来なければ、オーストラリアの条件に移行する」

23日 21:55 クドロー米国家経済会議(NEC)委員長

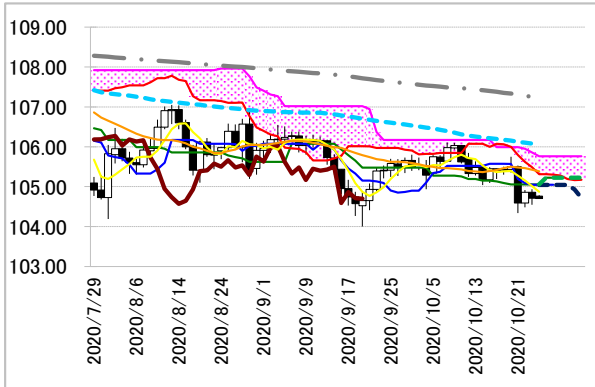
「刺激策にはまだ政策の違いがある」
「大統領選前に経済対策の合意ができるか分からない」

24日 00:28 ペロシ米下院議長

「米追加経済対策法案はトランプ大統領が支持すれば大統領選前に通過可能」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

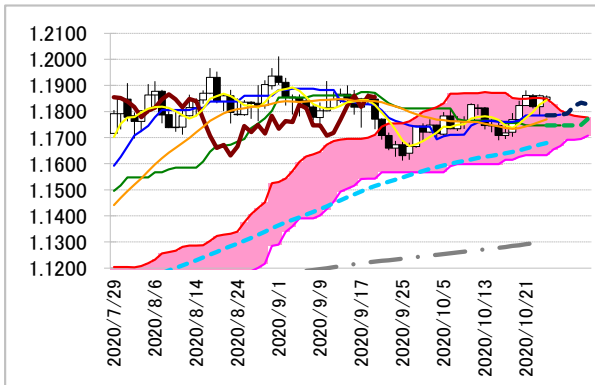


<ドル円＝転換線や雲が抵抗>

小陰線引け。21日につけた9月21日以来、1カ月ぶりの安値 104.34 円を目先の下値に下げ渋っている。底打ちが期待できる一目均衡表・基準線 105.06 円の戻りに追随した相場回復を期待したいところ。

だが、低下傾向の一目・転換線が目先の重し。一目・雲も抵抗として控えており、上伸を制限するだろう。

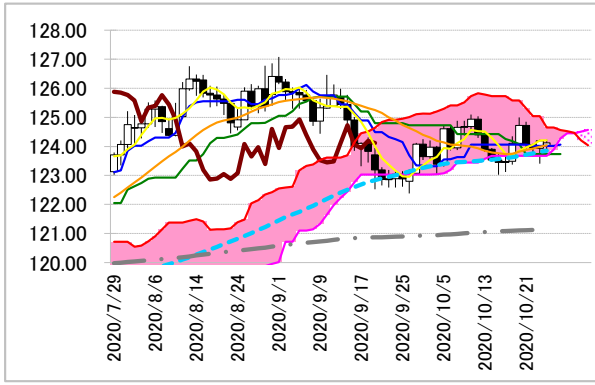
レジスタンス 2	105.77(日足一目均衡表・雲の上限)
レジスタンス 1	105.05(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	104.71
サポート 1	104.00(9/21 安値)



<ユーロドル＝雲を上抜け>

下影陽線引け。下押し部分を一目均衡表・転換線手前にとどめ、一目・雲を上抜けた。1.1848 ドルに位置し、低下傾向の雲の上限に沿って下押し展開も視野に入れておきたい。しかし、1.17 ドル台で上昇傾向の転換線や基準線が順次支えとなり、下落幅の拡大は回避できるだろう。

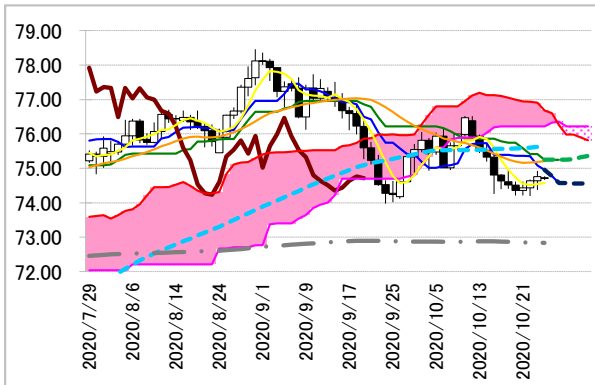
レジスタンス 1	1.1917(9/10 高値)
前日終値	1.1860
サポート 1	1.1785(日足一目均衡表・転換線)



<ユーロ円＝雲が薄くなる部分を上抜くパターン想定>

下影小陽線引け。一目均衡表・遅行スパンが同指標付近のローソク足を上回っており、買いサインが1つ増加した。雲を上抜けば、一目の主要3指標がすべて買い示唆となる。しかし、相場は低下傾向の雲の上限 124.65 円を上抜く勢いを欠く状態。攻略するにしても、今週末から週明けにかけてねじれる雲が薄くなる部分を上抜くパターンを想定する。

レジスタンス 1	124.65(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	124.19
サポート 1	123.41(10/23 安値)



<豪ドル円＝転換線前後の攻防>

下影小陽線引け。低下傾向の一目均衡表・転換線 74.96 円付近で動きが重くなりそう。基本的に同線付近で上昇力を弱める展開が想定できる。しかし、上伸できなくとも現水準付近のレンジを維持し、日柄の経過とともに転換線をこなすことができれば、水準回復が見込まれる一目・基準線や 90 日移動平均線を追うような戻りになると予想する。

レジスタンス 1	75.25(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	74.76
サポート 1	74.19(10/22 安値)

